

神奈川県学童保育

インフルエンザに侵入され、日曜日から家の中で隔離された。TVとネットの世界で過ごした。世のニュースは、トランプ氏一色。余りに理不尽な移民排斥。そのことへの論評はマスメディアに任せるとして、米国のアーティストたちの反応。大統領選を引きずっているとはいえ、堂々たる姿勢。かつてのハリウッド映画「真実の時」を彷彿させる。

方や日本は? 昨年の安保法制に関わって芸能人が発言すると「?」やはり民主主義の成熟の違いなのか? ただ風に吹かれてしまった方がどこにいつてしまったのだろうか!

2017年新春会長会を開催しました

あけましておめでとうございます。
横須賀市連絡協議会の吉田です。

初めて参加させていただきました。今年は、財政状況が特に厳しい中での新春会長会の幕開けとなりましたが、これまでの役員の皆様の検討で、何とか会費の値上げをしないですむよう報告がなされ感謝いたします。その代わり経営安定のために、県連協も収益事業を始めるということで、県連協が夏休みのお出かけ先を企画し、各地域の学童がこれに参加協力するというものです。三浦半島、平塚、県央の県内3地域を会場にするということでしたが、横須賀市連協では初めての取組で、全体の流れや負担など不安な部分もあるというのが正直な気持ちです。事業実績やノウハウのある横浜連協での追加開催について、意見として聞き入れていただくということで、少し安心しました。このような県連協より先に設立された歴史のある連協の存在は、いざというとき助かりますので、ご協力よろしくお願いします。

地域交流では、市町担当課との懇談や要望、支援員の処遇改善、保育料の補助等、日頃の運営に関する情報交換が行われました。各地域とも行政と課題共有を図りながら、少しずつでも取り組みを進めており、どこも同じように苦労している様子でした。議員も参加して運営指針の勉強会を開催されている地域があったり、要望書に対する回答をきちんともらって次年度につなげている地域連協が多く、大変参考になりました。

県担当課の補助採択要件に対する説明不足は頼りなさを感じました。もう少し、住民目線で分かりやすく説明できるようになっていただきたいものです。また、市町で学童の児童福祉施設の位置付けがまちまちという実態があり、父母が苦労しているとのことで、県担当課が統一的な見解を市町へ示し、市町が正しく理解できるよう取組が進むこと期待します。

最後に、今後の県連協の益々の発展を祈念しまして、横須賀連協からの新春会長会のご報告とさせていただきます。今後ともよろしくお祈りいたします。

(横須賀市連協 吉田会長)

.....

～ ほいく誌を広めよう ～

日本の学童ほいく普及推進会議が開かれました。1月15日(日)10時から12時まで、桜木町の横浜市社会福祉センターに6地域18名が集まり、話し合いました。

会長あいさつの後、横浜、横須賀、平塚からの報告を受け、各地域の実情を出し合いました。

〔横浜〕私のクラブは全員購読しているが、新しく役員になった保護者から疑問が出た。今までは子どもに持って帰ってもらっていたが、保護者会で配るように変更した。

その保護者会で、ほいく誌を基に子育てについて話し合いをするようにすると、全員購読の疑問の声は無くなった。

〔横須賀〕ほいく誌の重要性を指導員会で確認し、担当を決め、拡大に努めている。また、横須賀の指導員研修の中で、活用するようにしている。一方、基礎研修会が指導員会から市の主催になった。

〔平塚〕ひらたいニュースを毎月発行し、ほいく誌と同時に配布している。手作り感いっぱいのニュースで、おすすめページや平塚からの投稿、読んでもらいたいところを特に目立つように工夫をしている。

第53回全国研を神奈川で成功させよう

学童保育に関わるみなさん、

私たちは全国学童保育連絡協議会(以下全国連協)に結集して、学童保育の充実、こども達の成長と発達を保証する豊かな放課後の生活づくりに力を合わせています。全国連協を中心として、国への働きかけが実り、2015年からは「子ども・子育て支援新制度」に位置付けられ、私たちは初めて設備及び運営に関する最低基準を手にすることとなりました。各自治体はこの最低基準を上回る努力が認められこととなります。私たちは更に運動を積み上げ、実際の学童保育の内容充実にもむけ取り組む好機を向かえています。

しかし、国が示した省令基準に沿って市町村が最低基準を示す条例をつくりましたが、集団の規模(支援の単位)、面積基準や、指導員の配置基準などは現実との乖離を埋めるための猶予期間（5年）を設けるとされました。2019年までに各自治体の実施状況を整え、最低基準をクリアするには、より一層の努力が必要となっています。

第53回の全国研はこの猶予期間が切れる5年目の予算を市町村が準備する正にその年、2018年に実施されます。この年に神奈川県で全国研を実施することで、県内世論を大きく揺り動かし、各市町村が5年目の事業計画で最低基準をクリアするための思い切った予算立てを実施する後押しとなるよう大成功させたいと考えます。

神奈川県学童保育連絡協議会(以下県連協)は先の全国連協運営委員会で、第53回の全国研究集会(以下全国研)を神奈川で開催するよう県連協として取り組みたいと意志表明をしました。

全国連協の運動で重視して取り組んでいるのは毎年全国各県を持ち回りで開催地として実施する全国研です。全国研の地元での開催は、先に述べた行政への影響、世論への働きかけのみならず、地元から圧倒的多くの保護者、指導員が参加しやすい状況を作り出し、県内各地の学童保育運動を大きく前進させる力を持っています。県内の学童保育が大きく前進するよう、第53回全国研を神奈川県での開催で大成功に導くよう、関係する人々が一丸となって取り組んでゆくことを心より訴えます。

神奈川県学童保育連絡協議会会長 小神長次

どこまで知っていますか？ これまでの全国研♪

第51回（2016年）in 愛知	第42回（2007年）in 東京	第33回（1998年）in 広島
第50回（2015年）in 大阪	第41回（2006年）in 愛知	第32回（1997年）in 千葉
第49回（2014年）in 岩手	第40回（2005年）in 神奈川	第31回（1996年）in 愛知
第48回（2013年）in 岡山	第39回（2004年）in 大阪	第30回（1995年）in 滋賀
第47回（2012年）in 埼玉	第38回（2003年）in 栃木	第29回（1994年）in 埼玉
第46回（2011年）in 石川	第37回（2002年）in 京都	第28回（1993年）in 大阪
第45回（2010年）in 千葉	第36回（2001年）in 静岡	第27回（1992年）in 東京
第44回（2009年）in 滋賀	第35回（2000年）in 兵庫	第26回（1991年）in 京都
第43回（2008年）in 北海道	第34回（1999年）in 群馬	第25回（1990年）in 神奈川



第51回全国研 in 愛知 レポート

秋晴れの二日間だった。陽光がシャチホコに反射し、まぶしいくらいでした。何の呪いか、圧倒的に雨に降られる全国研にしては、岩手大会以来の両日晴天。神奈川でやるときもこうありがたいものです。

歓迎行事にはおどろいた。ヤットコです。

初めて見ました。名古屋の学童で二十数年前に作り出された、という変形竹馬のようなもの。うまく説明できませんが。

人間の分化は「あそび」から始まったという説がある。

どんな文明でも「あそび」はあり、発達するものです。

子どもが「あそび」のルールを改良してローカルルールをつくることはよくあります。新しいルールは楽しくなければ受け入れられません。ルールが公平でなければみんな楽しくありません。

学童の子どもたちは教わることなく、公平なルールがみんなのためになると気づいているのです。記念講演の話にもありました。発達から見るとこれはどう捉えられるのでしょうか。

(横須賀市保護者 OB 山崎善明)

第52回は
in ひょうGO!!

県連協ツアー準備中



第50回全国研 in 大阪

大阪での開催。参加者総数 5,557 人。

歓迎行事は、指導員の太鼓の演奏から始まりました。大阪の指導員はパワフル!!と思わせるような、おなかに響いてくるステキな演奏でした。

そして 1300 人の子どもたちによる、けん玉ダンス、子どもたちの真剣な顔に感動です。そして「大阪うまいものうた」。タコ焼き、ギョーザ、お好み焼きなど大阪のうまいもの紹介。最後には“手羽先、エビフリヤー、あんかけスパゲッティ”と、来年開催地「愛知」へとつながる、すてきな歓迎行事でした。

全体会記念講演では、「人が人の中で生きていくということ」～子どもも大人も生きやすい社会とは～というテーマで、横浜市立大学名誉教授 中西新太郎先生の講演でした。“子育てに失敗ということありません。大人の物差し判断基準で判断するから、失敗したとか、成功したとかになってしまうのです。子どもの人生は子どものもの。子どもの人生を大事にできるようにサポートするのが大人”と冒頭に話されたのがとても印象的でした。

子どもの人生は子どものもの。当たり前のことなのですが、改めて子どもにとって、子どものためにをしっかりと考えたいと思いました。

(県連協ニュース 14 年 12 月号より)



第49回全国研 in 岩手

今年も全国各地から学童保育の保護者、指導員や関連団体、行政、議員があつまる「全国学童保育研究集会」(全国学童保育連絡協議会主催)が、10月11日～12日の二日間にわたって開催されました。第49回目を迎える本大会は岩手県にて開催され、全国各地から4056名の参加者が集まりました。一日目には現地のこどもたちによる歓迎行事、全国学童保育連絡協議会木田会長による現在の学童保育の現状と課題について基調報告、宮城、福島、岩手の被災した地域の方々から特別報告、そして庄井良信先生の記念講演が開かれ、多くの参加者が一緒に“学童保育で大切にしたいこと”“置かれている現状”“子どもの育ちにかかわる大人として大切にしたい思い”を共有しました。二日目には29のテーマ、53教室に分かれて交流・学習が行われ、参加者からも「地域に帰ってまた頑張ろうと思える二日間だった」「学童保育で頑張っている仲間の多さに励まされた」など、感動の声がたくさん寄せられました。

(県連協ニュース 14 年 12 月号より)



活動報告(12月～1月の主な活動報告)

12月3日～4日 全国運営委員会	1月15日(日) 2017年新春会長会
12月6日(火) 県資質向上研修⑤in大和	1月22日(日) 全国 関東ブロック会議
1月11日(火) 県資質向上研修⑥in小田原	1月25日(水) 県資質向上研修⑦in海老名
1月15日(日) 「日本の学童ほいく」推進会議	// 指導員交流会

♪ 地域連協だより ♪

海老名市連協より

海老名市学童保育連絡協議会は次年度に向けて担当課との継続的な意見交換の場を設けることと、12月に行政への要望書を提出しました。

次年度に向けての課題は、条例に則した適正な運営をするための、

【小規模学童に対する運営の支援】

【開設場所の物件の確保】

また学童保育が必要な児童が安心して通える為の【障がい児加算の増額】を主な共通の課題として行政と共に取り組んでいきたいと考えております。

また引き続き、支援員の処遇、保護者の保育料の負担額など、改善すべき点は多くありますが、民設民営の地域ならではの自由な保育、柔軟な対応を活かしつつ、継続的に取り組んでまいります。



来月の「地域連協だより」では綾瀬市と相模原市を予定しています。お楽しみに！

今回は、「全国研」特集号です。第53回の神奈川県開催に向けて過去の全国研に思いをはせてみました。地域連協だよりは“海老名市”と“寒川町”です。様々な取り組みが感じられますね。

寒川 NPO に

寒川町は5つの小学校に6つの学童保育があります。各々町から委託を受けた保護者会が運営していましたが、保護者の負担が重く、特に役員を引き受けた人は仕事も手につかない状態でした。そこで、連絡協議会を引継ぎ、寒川学童保育会を2015年4月に立ち上げ、町から6つの学童保育を一括して委託を受け、運営することになりました。

この寒川学童保育会を2016年8月にNPO法人化しました。よりよい保育を実現するために、様々な取り組みをしています。

2016年11月に町に10項目の申し入れを行いました。12月27日付で回答は来ましたが、予算のかかる項目は大きな前進はありませんでした。2017年4月入所に向け「利用の手引き」を改訂し準備を進めています。

<これからの予定>

- 2月26日(日) 第40回神奈川県学童保育研究集会(通称 かな研)
「関東学院大学金沢八景キャンパス」にて 10:00～16:15 申込受付中!
- 6月25日(日) 神奈川県学童保育連絡協議会 第41回定期総会
- 8月第1週に文化事業として子ども向け映画の上映会を予定しています。(詳細は後日)

*「かな研」の詳細は、県連協HP (<http://atdiary.jp/kanaken>) をご覧ください。